

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
31	14.30	14.62	(岩級区分欄)D	14.30	14.62	(岩級区分欄)CL	14.30	14.62	(岩級区分欄)CLに含める	-
32	14.62	20.04	CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62	20.04	CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目 ぞい に風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。	14.62	20.04	14.62~20.04m: CL 20~40° の割れ目が主体で、割れ目 ぞい に風化で砂状化が拡大する部分も含む。	-
33	-	16.49	上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。	-	-	-	-	16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。	-	
34	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35° 前後の割れ目である。	15.33	15.43	風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35° 前後の割れ目である。	15.33	15.43	15.33~15.43m: 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35° 前後の割れ目である。	-
35	15.73	15.80	80° 割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。	15.73	15.80	80° 割れ目 ぞい 薄くマンガン鉱染を受ける。	15.73	15.80	15.73~15.80m: 80° の割れ目 ぞい に薄くマンガン鉱染を受ける。	-
36	16.31	16.31	50° 割れ目ぞい幅5~15m/半周結状白色シルト~粘土はさむ。	16.31	16.31	50° 割れ目 ぞい 幅5~15mm やや硬質な 白色シルト~粘土 はさむ 。	16.31	16.31	16.31m: 50° の割れ目 ぞい に幅5~15mmで やや硬質な 白色シルト~粘土を挟む。	-
37	16.49	16.49	35° 割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。	-	-	-	16.49	16.49	16.49m: 35° の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目も含む。	-
38	16.76	16.87	φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。	16.76	16.87	φ10~20mmの岩片状呈する。岩片間は幅1~2mm程度砂状化。	16.76	16.87	16.76~16.87m: 径10~20mmの岩片状呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。	-
39	17.13	17.31	割れ目の一部に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土をはさむ。	17.13	17.31	割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。	17.13	17.31	17.13~17.31m: 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。	-
40	17.40	19.00	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	17.40	19.00	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目 ぞい の一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	17.40	19.00	17.40~19.00m: 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。	-
41	17.85	18.00	割れ目が交差、一部φ20~30m/mに岩片化。粘土や砂ははさまない。	17.85	18.00	割れ目が交差、一部φ20~30mmに岩片化。粘土や砂は はさまない 。	17.85	18.00	17.85~18.00m: 割れ目が交差、一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。	-
42	18.05	18.47	珪化変質により石英量多くなり硬化している。	-	-	-	18.05	18.47	18.05~18.47m: 珪化変質により石英量が多くなり硬化する。	-
43	18.43	20.04	一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	18.43	20.04	一部の割れ目 ぞい や岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は 伴わない 。	18.43	20.04	18.43~20.04m: 一部の割れ目 ぞい や岩芯がマンガン鉱染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	-
44	18.90	18.90	50° 割れ目幅1~5m/m淡黄褐色砂はさむ。	18.90	18.90	50° 割れ目幅1~5mm淡黄褐色砂 はさむ 。	18.90	18.90	18.90m: 50° の割れ目に幅1~5mmの淡黄褐色砂を挟む。	-
45	19.59	19.59	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られている。 80° 割れ目は19.65mで幅10m/m砂状化するが下位に向かうにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟在物も分布しなくなる。	19.59	19.59	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に 止められる。切られている。 80° 割れ目は19.65mで幅10mm砂状化するが、下位に向かうにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟在物も分布しなくなる。 40° の割れ目の細粒部は局所的。割れ目周辺の岩壁に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19.59	19.59	19.59m: 40° と80° の割れ目が交差し、80° の割れ目は40° の割れ目に止められる。80° の割れ目は19.65mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向かうにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟在物も分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩壁に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
46	20.04	20.93	CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。 長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。 割れ目挟在物は殆ど分布しない。	-	-	-	20.04	20.93	20.04~20.93m: CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁化するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟在物は殆ど分布しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	
		コア観察カードから正しく転記されているか？		追加変更した情報が正しく転記されているか？						
47	20.93	26.70	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。 割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また、所々幅1~2mm軟質白色粘土脈を挟む。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。	20.93	26.70	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。 割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。 また、所々幅1~2mm軟質白色粘土脈を挟む。 上端側の22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないものが多い。	20.93	26.70	20.93~26.70m:CL 45° 前後の割れ目が主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差する。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々幅1~2mmの軟質白色粘土脈を挟む。22.69m以浅は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。	
48	-	-	-	21.14	21.24	上端42°、下端49° の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進んでいる。酸化、マンガン鉱染が見られる。	21.14	21.24	21.14~21.24m:上端42°、下端49° の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。	
49	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。	21.55	21.65	21.55~21.65m:風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」の岩片で砂礫状を呈する。 粘土は殆んど伴わない。	
50	21.70	22.40	高角度割れ目を主体に、厚さ1m/m以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mm/mの軟質白色粘土脈が分布。	21.70	22.40	高角度割れ目を主体に、厚さ1mm以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質白色粘土脈が分布。	21.70	22.40	21.70~22.40m:高角度割れ目を主体に、幅1mm以下とごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質白色粘土脈が分布する。	
51	22.03	22.63	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10m/m砂状化し、幅1~2m/mの軟質粘土脈を伴う。	22.03	22.63	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10m/m砂状化し、幅1~2m/mの軟質粘土脈を伴う。	22.03	22.63	22.03~22.63m:70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	
52	22.10	22.45	一部に硬さ「C」岩片伴う。	22.10	22.45	一部に硬さ「C」岩片伴う。 高角度割れ目ぞいが風化している。	22.10	22.45	22.10~22.45m:一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目ぞいが風化する。	
53	22.50	22.64	上端60° 幅2~3m/m褐色粘土脈、下端45° 幅1m/m褐色砂に囲まれて軟化著しく、一部で幅0.5m/m白色粘土脈を網状に伴う。	22.50	22.64	上端60° 幅2~3mm褐色粘土脈、下端45° 幅1mm褐色砂に囲まれて軟化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土脈を網状に伴う。	22.50	22.64	22.50~22.64m:上端60° で幅2~3mmの褐色粘土脈、下端45° で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。	
54	22.91	23.49	40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることもある。	22.91	23.49	40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を止める切ることがある。 40° 割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。	22.91	23.49	22.91~23.49m:40° 前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60° 斜交する60~80° の割れ目を止めることがある。40° の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。	
55	23.45	23.71	幅1~3m/m軟質白色粘土脈を挟む80° 割れ目が分布。	23.45	23.71	幅1~3mm軟質白色粘土脈を挟む80° 割れ目が分布。	23.45	23.71	23.45~23.71m:80° で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。	
56	23.71	24.53	軟化し硬さ「D」主体。	23.71	24.53	軟質化し、硬さ「D」主体。	23.71	24.53	23.71~24.53m:軟質化し、硬さ「D」主体。	
57	23.71	23.95	80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。	-	-	-	23.71	23.95	23.71~23.95m:80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。	
58	24.06	24.22	硬さ「C」主体。	-	-	-	24.06	24.22	24.06~24.22m:硬さ「C」主体。	
59	24.37	24.37	45° 厚さ2m/m石英脈	24.37	24.37	45° 厚さ2mm石英脈	24.37	24.37	24.37m:45° で幅2mmの石英脈を挟む。	
60	24.53	26.70	硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやや少なくなる。	24.53	26.70	硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやや少なくなる。	24.53	26.70	24.53~26.70m:硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	
61	24.60	24.92	80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	24.60	24.92	80~90° 割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	24.60	24.92	24.60~24.92m:80~90° の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート (H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
62	25.00	25.81	25.00	25.81	25.00	25.81	25.00	25.81	25.00～25.81m及び25.09～25.28m: 85°～90°の割れ目に幅1～2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。
63	25.80	-	25.80	-	25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	-	-	-	25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
64	26.22	26.22	26.22	26.22	50°割れ目は文差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ, 5m/m)	26.22	26.22	26.22	50°割れ目は文差する高角度割れ目を止めている。切っている。(左ズレ, 5mm) 割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。
65	26.70	26.90	26.70	26.90	破砕帯(主せん断面26.70m)	26.70	26.90	26.90	破砕部(最新活動面26.71m)
66	26.70	26.70	26.70	26.70	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒。岩片を含まない軟質粘土(ガウズ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1m/m以下。	26.70	26.70	26.70	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒。岩片を含まない軟質粘土(ガウズ)。色調は淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ1m以下。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。
67	26.70	26.90	26.70	26.90	Hb 上端43°で直線的に下端54°でやや湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒。φ5～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を20～30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。 下端は厚さ1～2m/mの粘土脈。色調は灰白(2.5Y8/2～7.5YR8/2)。厚さ160～180m/m	26.70	26.90	26.90	Hj 上端43°で直線的に、下端54°でやや湾曲して連続。φ2～3mm石英粒。φ5～10mm粘土化～硬さ「D」岩片を20～30%含む軟質な粘土混じり礫状を呈する。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土(Hc-1)を挟む。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 下端は厚さ1～2mmの粘土脈。色調は灰白色(2.5Y8/2～7.5YR8/2)。厚さ160～180mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。
68	26.70	26.90	26.70	26.90	(破砕度区分欄)Hb	26.70	26.90	26.90	(破砕度区分欄)Hj
69	26.90	27.57	-	-	D 27.00m以浅は砂礫状。27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。	-	-	-	26.90～27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状。27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていたと推定される。
70	27.57	28.12	27.57	28.12	Cl 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	27.57	28.12	28.12	Cl 硬さ「C」岩片主体である。も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄く砂や粘土を挟むことが多い。
71	-	-	27.98	27.98	-	27.98	27.98	27.98	37°割れ目に幅10mmの白色シルトを挟在する。
72	28.12	28.14	28.12	28.14	(岩級区分欄)D	28.12	28.14	28.14	(岩級区分欄)Clに含める

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
73	28.12	28.14	破砕帯(主せん断面28.12m)	破砕部(最新活動面28.12m)	28.12	28.14	●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:礫質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にぶい黄橙色を呈する。幅5~7mm。	・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
74	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガワン)。色調は浅黄(7.5YR7/3)、厚さ1~3m/m。	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガワン)。色調は浅黄色(7.5YR7/3)、厚さ1~3mm。	28.12	28.14		
75	28.12	28.14	Hj 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5mm岩片からなり、「礫質砂状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR7/4)、厚さ1~3m/m。	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5mm岩片からなり、「礫質砂状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR7/4)、厚さ5~7mm。やや軟質で、下位との境界は一部漸移的で直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	28.12	28.14		
76	28.12	28.14	(破砕度区分欄)Hj	(破砕度区分欄)Hb	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb	-
77	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40~60°で分布する。	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。	28.14	29.10	28.14~29.10m:CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。	-
78	29.10	29.12	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	29.10	29.12	(岩級区分欄)CLに含める	-
79	29.10	29.12	破砕帯(主せん断面29.10m)	破砕部(最新活動面29.10m) 最新活動面は上端か上端に近い面(共に29.10m)の可能性が有る。	29.10	29.12	●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガワン)。色調は、上端側:灰白(10YR8/2)、中央:灰黄褐色(10YR4/2)、下端側:灰黄褐色(10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。 29.11~29.12m:礫質粘土状部(Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含むやや硬質の礫質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。	・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
80	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガワン)。色調は、上端側:灰白(10YR8/2)、中央:灰黄褐色(10YR4/2)、下端側:灰黄褐色(10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。	Hc-1 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。φ1mm石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガワン)。色調は、上端側:灰白色(10YR8/2)、中央:灰黄褐色(10YR4/2)、下端側:灰黄褐色(10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	29.10	29.11		
81	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。φ1~2mm石英粒、φ3~5mm粘土化岩片を20%程度含むやや硬質の礫質粘土状を呈する。色調はオリーブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	29.11	29.12		
82	29.12	30.56	CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	29.12	30.56	29.12~30.56m:CL 30.02m以浅は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。	-
83	-	-	-	網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	29.47	29.59	29.47~29.59m:網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。	-
84	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。 密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
85	29.15	29.60	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	29.15	29.60	割れ目治いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	29.15	30.56	29.15~29.60m, 30.30~30.56m: 割れ目治いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。	記事内容が同じであるため、30.30~30.56mの深度も含めて記載した
86	30.00	31.00	(ROD欄)36 (最大コア長欄)20	30.00	31.00	(ROD欄)44 (最大コア長欄)34	30.00	31.00	(ROD欄)44 (最大コア長欄)34	-
87	30.30	30.56	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	30.30	30.56	割れ目治いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
88	30.56	32.21	CH 堅硬。割れ目挟雑物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	CH 堅硬。割れ目挟在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	30.56~32.21m: CH 堅硬。割れ目の挟在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	-
89	31.30	31.30	31.30m付近は割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	-
90	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟化する。上下端には各々幅2mm、0.5mm/mの軟質褐色粘土脈をはさむ。	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。	31.62	31.66	31.62~31.66m: 上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。	-
91	32.11	32.11	40°割れ目をはさみ厚さ15~20mm/緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。φ0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	40°割れ目が厚さ15~20mmで緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。φ0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	32.11m: 40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	-
92	32.21	33.09	CM 一部で挟在物をはさむがはさまない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	CM 一部で挟在物を挟むが挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	32.21~33.09m: CM 一部を除き、挟在物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	-
93	33.30	33.53	割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。	32.30	32.53	割れ目治いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。	32.30	32.53	32.30~32.53m: 割れ目治いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。	-
94	32.53	32.53	45°厚2mm軟質黄褐色粘土はさみ、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	32.53	32.53	45°幅2mm軟質黄褐色粘土挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	32.53	32.53	32.53m: 45°で幅2mmの軟質黄褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	-
95	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mm/mの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	33.09~34.20m: CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。	-
96	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm/m、やや締った灰白色粘土脈をはさむ。	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm、やや硬質な灰白色粘土脈を挟む。	34.20	34.20	34.20m: 40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈を挟む。	-
97	34.20	35.94	CM 殆んどの割れ目に挟雑物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	CM 殆んどの割れ目に挟在物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	34.20~35.94m: CM 殆んどの割れ目に挟在物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
98	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5m/m砂状化。	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5mm砂状化。	35.31	35.31	35.31m:60° の割れ目ぞいに幅3~5mmが砂状化する。	-
99	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が止められる。切られる(変位量不明)。 5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	35.47	35.47	35.47m:5° の割れ目で90° の割れ目が止められる。5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
100	35.94	37.30	CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。	35.94	37.30	CH 堅硬。割れ目挟雑物も分布しない。	35.94	37.30	35.94~37.30m:CH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。	-
101	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし、密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	36.07	36.32	36.07~36.32m:割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	-
102	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目は交差する割れ目を切っている(変位量不明)。	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m、37.08mに見られる。切っている(変位量不明)。 57° の割れ目の砂~細片化部は直線性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	37.03	37.03	37.03m:57° の割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m、37.08mに見られる。57° の割れ目の砂~細片化部は直線性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
103	37.30	37.55	(岩級区分欄)CM	37.30	37.55	(岩級区分欄)CL	37.30	37.55	(岩級区分欄)CLに含める	-
104	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟化する。	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	37.30	37.55	37.30~37.55m:CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	-
105	37.55	37.69	OL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。	37.55	37.69	OL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状呈する。	37.55	37.69	37.55~37.69m:CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状を呈する。	-
106	37.69	37.81	(岩級区分欄)D	37.69	37.81	(岩級区分欄)CL	37.69	37.81	(岩級区分欄)CLに含める	-
107	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。厚1m/m以下の白色粘土脈も伴う。	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。	37.69	37.81	37.69~37.81m:D 50~60° の割れ目ぞいに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。	-
108	37.81	38.50	CL	-	-	-	37.81	38.50	37.81~38.50m:CL	-
109	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2m/m白色~褐色軟質粘土脈も伴う。	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また少量の厚さ1~2mm白色~褐色軟質粘土脈も伴う。	38.21	38.21	38.21m以深は50° 前後の割れ目ぞいに風化、砂状化進む。また、少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土脈も伴う。	-
110	38.50	39.14	CM 一部で砂着割れ目を含むが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-	38.50	39.14	38.50~39.14m:CM 一部で砂着割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-
111	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3m/mではさむことが多い。	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3mmで挟むことが多い。	39.14	40.79	39.14~40.79m:CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1~3mmで挟むことが多い。	-
112	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2m/mの軟質粘土脈はさむ。	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2mmの軟質粘土脈挟む。	40.14	40.26	40.14~40.26m:50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	-
113	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>							
114	-	-	40.72	40.72	50°の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。	40.72	40.72	40.72m:50°の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。	-			
115	40.79	41.83	-	-	-	40.79	41.83	40.79~41.83m:CM 一部の割れ目を除き、割れ目に挟在物は分布しない。	-			
116	41.30	-	-	-	-	41.30	-	41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では既に開口化している。	-			
117	41.30	41.30	41.30	41.30	60°割れ目沿いにφ2~4mm石英が多く晶出している。	41.30	41.30	41.30m:60°の割れ目沿いに径2~4mmの石英が多く晶出している。	-			
118	41.83	41.95	41.83	41.95	(岩級区分欄)D	41.83	41.95	(岩級区分欄)CLに含める	-			
119	41.83	41.95	41.83	41.95	D 上端60°、下端55°割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と岩組織は不明瞭化。	41.83	41.95	41.83~41.95m:D 上端60°、下端55°の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。	-			
120	41.95	42.78	41.95	42.78	CL 割れ目は直下の破砕部とせん断面と同方向の40~50°割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。 長石の一部が白濁化している。	41.95	42.78	41.95~42.78m:CL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40~50°の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土脈や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。	-			
121	42.36	42.40	-	-	-	42.36	42.40	42.36~42.40m:上下端とも40°の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。	-			
122	42.78	43.00	42.78	43.00	(岩級区分欄)D	42.78	43.00	(岩級区分欄)CLに含める	-			
123	42.78	42.85	42.78	42.85	D 風化で著しく軟化するが、岩組織や割れ目の一部は残留している。	42.78	42.85	42.78~42.85m:D 風化で著しく軟化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	-			
124	42.85	42.91	42.85	42.91	破砕部(せん断面42.85m)	42.85	42.91	破砕部(最新活動面42.85m)	-			
125	42.85	42.87	42.85	42.87	Hc-2 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。 φ1~2mm石英粒、φ5mm粘土化岩片を20%程度含む半固結粘土(ガウジ)。 上端1~2mm/mは風化で褐色化(明黄褐:10YR6/6)する。 色調は灰白(2.5Y8/1)、厚さ15~25mm/m。	42.85	42.87	Hj 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。 φ1~2mm石英粒、φ5mm粘土化岩片主体のを20%程度含む粘土混じり硬状部(ガウジ)。 上端幅1~2mmは風化で褐色化(明黄褐:10YR6/6)し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。 色調は灰白色(2.5Y8/1)、厚さ15~25mm。 やや硬質。含まれる細粒部は糊目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	42.85	42.91	●42.85~42.91m:破砕部 42.85~42.87m:粘土混じり硬状部(Hj) 上端45°で直線的に、下端41°で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m:粘土混じり岩片状部(Ij) 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。幅20~30mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
126	42.87	42.91	42.87	42.91	Hj 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 φ5~10mm/mの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)、厚さ60mm/m	42.87	42.91	Ij 上端41°、下端66°でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 φ5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土脈が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)、厚さ20~30mm。 やや軟質。含まれる細粒部は糊目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容		
127	42.85	42.87	(破砕度区分)Hc-2	42.85	42.87	(破砕度区分)Hc	42.85	42.87	(破砕度区分)Hc	-
128	42.91	43.00	D 締った砂礫状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。白色粘土を脈状に伴う。	42.91	43.00	D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅している。白色粘土を脈状に伴う。	42.91	43.00	42.91~43.00m: D 硬質な砂礫状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。	-
129	43.00	43.17	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。	43.00	43.17	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。	43.00	43.17	43.00~43.17m: CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を細脈状に伴う。	-
130	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土。砂の薄層を挟みながら、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。一部で砂層割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土。砂の薄層を挟みながら、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。一部で砂層割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	43.17	45.66	43.17~45.66m: CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土。砂の薄層を挟みながら、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが劣化はない。一部で砂層割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	-
131	-	45.66	CM	-	45.66	CM	-	-	-	・上記でCM級の詳細を記載しているため記載しない
132	45.00	45.40	80~90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。	45.00	45.40	80~90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。切られている。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.00	45.40	45.00~45.40m: 80~90°の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
133	45.00	46.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	45.00	46.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	-
134	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部φ5~20mm/mに片状化するが砂や粘土は挟まない。	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部φ5~20mmに片状化するが砂や粘土は挟まない。	45.41	45.50	45.41~45.50m: 割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが、砂や粘土は挟まない。	-
135	45.66	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。	45.66	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。	45.66	46.14	45.66~46.14m: CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以深は硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に挟む。	-
136	46.14	47.58	CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。割れ目挟持物は殆んど分布しない。	46.14	47.58	CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。割れ目挟持物は殆んど分布しない。	46.14	47.58	46.14~47.58m: CM 堅硬であるが、長石の多くは白濁化する。割れ目に挟持物は殆んど分布しない。	-
137	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	47.00	47.23	47.00~47.23m: 割れ目ぞいや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。	-
138	47.24	47.29	上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10mm/mに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	47.24	47.29	上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	47.24	47.29	47.24~47.29m: 上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~径5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	-
139	47.58	47.77	CL 35~45°割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。	47.58	47.77	CL 35~45°割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。	47.58	47.77	47.58~47.77m: CL 35~45°の割れ目ぞいに幅2~5mm程度で砂状~細片状化する。	-
140	47.58	47.77	(岩級区分欄)CL	47.58	47.77	(岩級区分欄)CM	47.58	47.77	(岩級区分欄)CMに含める	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
141	47.77	48.61			-	47.77	48.61	47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で低密度の低い割れ目を含む。割れ目挟在物は分布しない。	-
142	48.61	56.69	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含んでいる。割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	48.61	56.09	48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。	-
143	48.61	50.56	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m・40°厚さ15mm/m、50.18m・35°厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m・40°厚さ15mm、50.18m・35°厚さ30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	-
144	-	-	48.78	48.79	上端39°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	48.78	48.79	48.78~48.79m: 上端39°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	-
145	50.00	50.42	-	-	-	50.00	50.42	50.00~50.42m: 70°前後の風化した微細な割れ目が数条波打りながら連続する。一部の割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。	-
146	50.56	51.16	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3mmと薄く砂状部をはさんでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。	50.56	51.16	50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、30~50°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅1~3mmで薄く砂状化することが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	-
147	-	-	51.16	51.45	51.16m、51.45mに35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	51.16	51.45	51.16m、51.45mの35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	-
148	51.16	52.00	-	-	-	51.16	52.00	51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。	-
149	51.35	51.64	-	-	-	51.35	51.64	51.35~51.64m: 割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	-
150	52.00	52.32	52.00	52.32	φ10~20mm硬さ「D」「C」岩片と岩片間の締った砂状部からなる。	52.00	52.32	52.00~52.32m: 径10~20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。	-
151	52.32	52.75	-	-	-	52.32	52.75	52.32~52.75m: 白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。	-
152	52.75	53.10	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」も残留。	52.75	53.10	52.75~53.10m: 岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。	-
153	53.10	55.82	-	-	-	53.10	55.82	53.10~55.82m: 密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。褐色を帯びる。	-
154	53.40	53.60	53.40	53.60	硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。	53.40	53.60	53.40~53.60m: 硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	-
155	-	-	53.79	53.81	上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状~細片状を呈する。	53.79	53.81	53.79~53.81m: 上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状~細片状を呈する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
156	53.85	54.31	割れ目挟在物少ない。	53.85	54.31	挟在物を伴う割れ目は少ない。	53.85	54.31	53.85～54.31m: 挟在物を伴う割れ目は少ない。	-
157	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。	54.35	54.59	割れ目沿いや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染うけ、黒褐色化する。	54.35	54.59	54.35～54.59m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-
158	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土をはさむ割れ目が多い。	55.08	55.55	割れ目沿い砂状化が進み砂や粘土を挟む割れ目が多い。	55.08	55.55	55.08～55.55m: 割れ目沿いに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。	-
159	55.08	55.08	25°厚さ5～10m/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下に厚さ10m/m砂状部伴う。	55.08	55.08	25°厚さ1mmの淡黄色粘土挟む。粘土直下に厚さ10mm砂状部伴う。	55.08	55.08	55.08m: 25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。	-
160	55.82	56.69	割れ目に挟在物が分布しないことが多い。	55.82	56.69	挟在物を伴わない割れ目が多い。	55.82	56.69	55.82～56.69m: 挟在物を伴わない割れ目が多い。	-
161	56.00	56.30	73～90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状～岩片状を呈する。	56.00	56.30	73～90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状～岩片状を呈する。	56.00	56.30	56.00～56.30m: 73～90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は礫状～岩片状を呈する。	-
162	56.69	56.72	破碎帯(主せん断面56.72m)	56.69	56.72	破碎部(最新活動面56.72m)	56.69	56.72	●56.69～56.72m: 破碎部 56.69～56.72m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3～10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行～ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm/幅1mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-
163	56.69	56.72	Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3～10m/m硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。主せん断面近傍では、それに平行～ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20m/m	56.69	56.72	Hj 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3～10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行～ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm/幅1mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	56.69	56.72	●56.69～56.72m: 破碎部 56.69～56.72m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3～10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状～粘土化部からなる。「粘土混じり岩片状」。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行～ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)～黄灰色(2.5Y6/1)。厚さ20mm/幅1mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-
164	56.72	56.72	He-1 31°で上下端ともに直線的に連続。径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウン)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1m/m	56.72	56.72	He-1 31°で上下端ともに直線的に連続。径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウン)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	56.72	56.72	56.72～57.29m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	-
165	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	56.72～57.29m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	-
166	56.94	57.02	マンガン鉱染により黒褐色化。	-	-	-	56.94	57.02	56.94～56.97m、57.00～57.02m: マンガン鉱染により黒褐色化する。	-
167	57.29	58.89	CL 40～50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟在物が多い。58.51m以深では斑点状～脈状のマンガン鉱染部が点在する。	-	-	-	57.29	58.89	57.29～58.89m: CL 40～50°の割れ目が主体で、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目の挟在物が多い。58.51m以深は斑点状～脈状のマンガン鉱染部が点在する。	-
168	58.88	58.82	10°幅1～3m/m、58.82m・45°幅7m/mの石英脈分布。	58.88	58.82	10°幅1～3mm、58.82m・45°幅7mmの石英脈分布。	58.88	58.82	58.88m・10°で幅1～3mm、58.82m・45°で幅7mmの石英脈が分布する。	-
169	58.89	58.98	(岩級区分欄)D	58.89	58.98	(岩級区分欄)CL	58.89	58.98	(岩級区分欄)CLに定める	-